

健康教育実践記録

第4学年 1, 2組	指導者	宮田 聡子・古賀 淳三
題 材	育ちゆく体とわたし	
ねらい	体は年齢とともに発育し変化することや、一生の間には発育が盛んな時期が2回あり、2度目の盛んな時期をこれから迎えようとしていることを理解する。また、発育のしかたには個人差があることをおさえる。	
本時の活動	(実践日 平成 27 年 6月 16 日 火 曜日 第 5 校時)	
	児 童 の 活 動	児童の主な反応・様子
1	本時のめあてをつかむ。	○ 本時では今日までの成長について考えることを知る。
2	生まれてからこれまでの10年間で、どのくらい身長が伸びているかを調べる。	○ 1～4年生の発育測定の結果をもとに、生まれたとき(約50cm)から、どのくらい身長が伸びているかを計算する。 ・70cm以上伸びている。 ・H君は、90cm近く伸びている。
3	これからの10年間で、どのくらい身長が伸びるかを確かめる。	○ 今の身長に、これまでの10年間で伸びた身長を足して、10年後の身長を計算する。 ・20才では、身長が2メートル以上になる。 ・みんな身長が2mなんて、ありえない。 ○ 生まれてから1歳ぐらいまでの間が1回目の発育急進期であること、これから2回目の急進期を迎えるが、1回目と同じようには身長が伸びないことを知る。
4	資料や自分たちの身長の伸び方から、発育の仕方について話し合う。	○ 資料の4人の「1年ごとの身長の伸び」のグラフからそれぞれの特徴を見つけ、自分たちの発育の仕方について、気付いたことをグループで話し合う。 ・毎年同じ長さずつ伸びている人がいる。 ・今年になって10cmも伸びている人がいる。
5	本時の学習を振り返る。	○ グループでの話し合いの結果を全体で発表する。 ・みんな身長が伸びているが、伸び方はみんな違う。 ・これから、もっと大きくなるのが楽しみ。
指導を終えての考察		
<p>本単元の学習に入る前に、自分たちが大人に近づいていることや、これからいろいろな体の変化が表れることを知る大切な体の学習であることを伝えていたため、不安と期待をもって学習に臨む姿が見られた。</p> <p>10年後の身長が2m以上になるという計算の結果には、驚きの声が上がっていたが、すぐに、「そんなことはありえない」という発言が聞かれた。0～1才が1回目の発育急進期であり、このときが1番発育が盛んであること、これから2回目の急進期を迎えること、発育の仕方には個人差があることを知り、身長が低いことや1年ごとの身長の伸びが少ないことを気にしていた子どもたちは、これからの自分の発育に希望がもてたようで、安心した表情を見せていた。</p>		

※ワークシート・児童の感想などの資料があれば、別途添付してください。